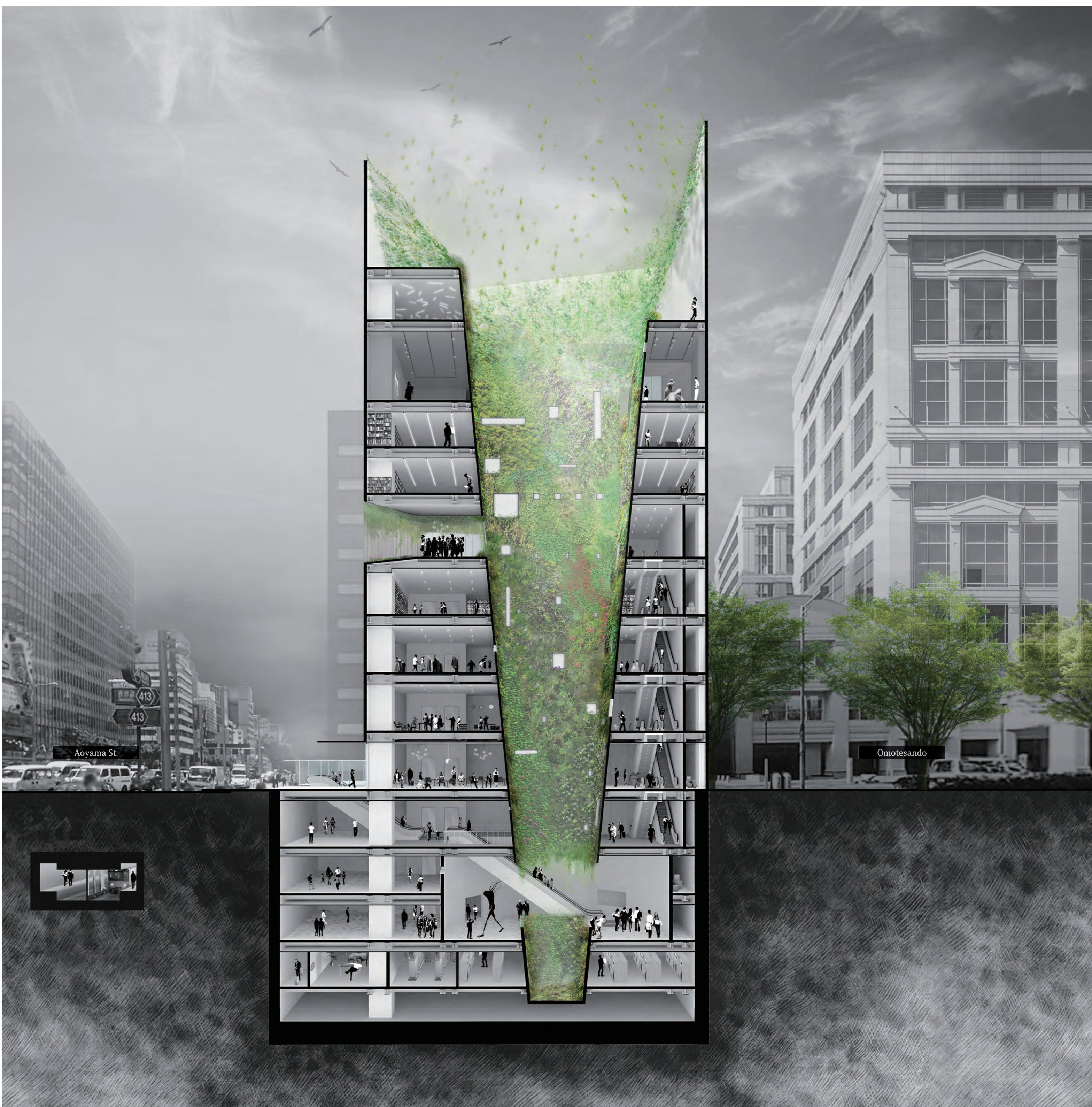


虚
の
表
徴

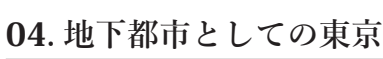
世界各地に存在するブティック街の中で、表参道を表参道たらしめているのは**明治神宮**の存在である。本提案では、明治神宮の持つ**虚無性**を踏襲し、象徴としての〈void〉を内包する建築を設計することで、参道でありブティック街である**表参道の固有性を顕在化させる**。

An aerial photograph showing a dense urban landscape. A prominent green corridor, likely a park or a tree-lined street, runs vertically through the center of the image. The surrounding area is filled with numerous buildings of varying heights and densities. In the background, a large, flat, green area (possibly a park or a body of water) is visible, followed by a range of mountains under a clear sky.

表参道を明治神宮の参道として意識している人は少ない。ブリック街として華やかな道でありながら参道としての情調を作り出し、明治神宮への重要な軸線を**強化**しながら、世界各地に存在する類似したブリック街と差別化し、**表参道の固有性**を高めたい。そのために明治神宮を信仰軸の終点として、対象敷地に軸点の要素を持ち込みたいと提案する。本来参道には段階的に気を高めていくように設計されるが、始点は終点と異なりヒラユミではなく、御所のような巨匠に聖なる空間と**結節点のような建築**である。



“意味”で満たされた街の中に存在する巨大な“空虚”である明治神宮の都市構造を踏襲し、機能（意味）で満たされたポリウムの中に巨大な void（空虚）を設ける。機能主義的に計画された平面の中心に**非効率**としての void を設けつつ、東京でも有数の一等地である対象敷地のふるまいにたい容積率を最大限確保する。voidの中に見えることはできるが立ち入ることはできない禁域であり、人々は届くことのない奥行きに思いを馳せる。

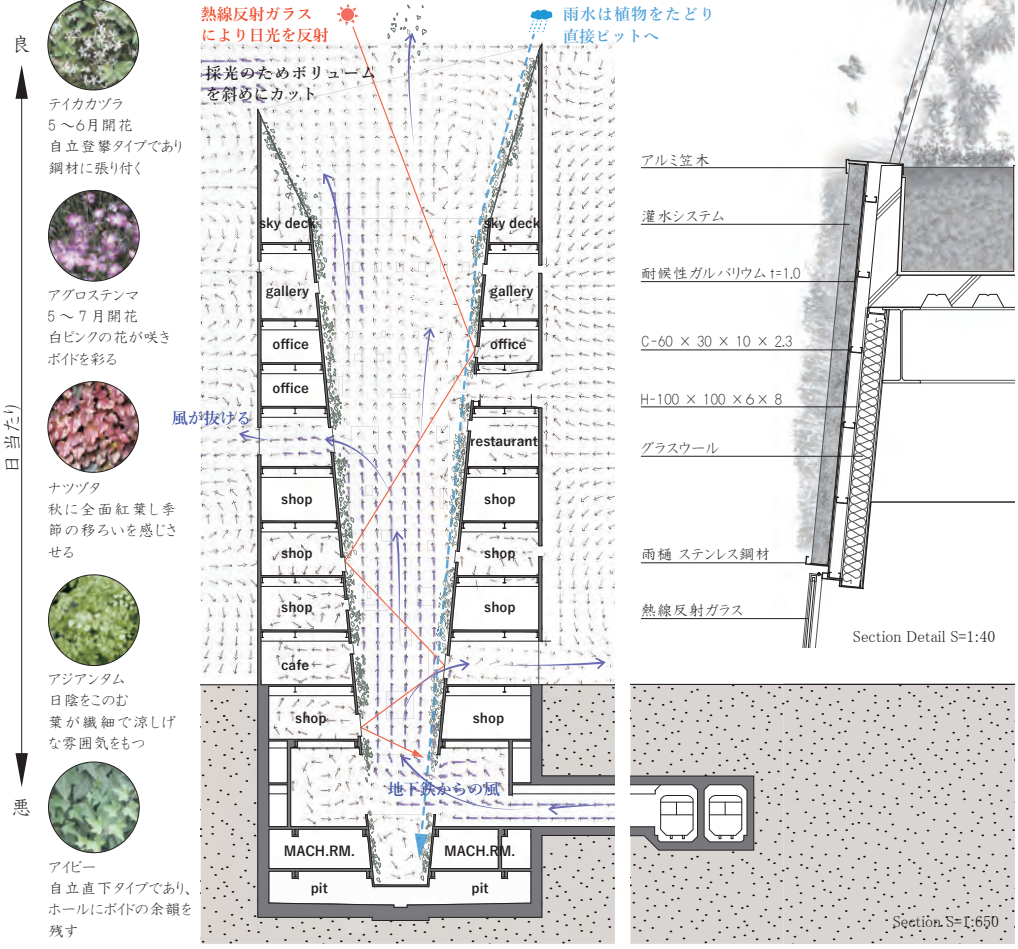


地下鉄路線図

地下鉄と建地

全スタブの簡易図 約40%

明治神宮の杜のように void は全面緑化する。void 内の窓は熱線反射ガラスとし、日光の光を下部まで届ける。しかしながら void 内の照度のムラがあるため、下部から上部にかけて日陰を好む植物から日向を好む植物へとグラデーション的な配置とする。また地下鉄と通じた void は駅の間無数のエネルギーを建物内に取り込む。



中心の void 空間を成立させるために建物の長手方向両側に、柱：CFT、梁：S によって構成されたメガストラクチャーを配置することで床をキャンセラレーで支え、かつ床荷重による片持ち梁のたわみを鋼材のテンションでキャンセルすることで void 周りの無柱空間を可能にした。

